

主な過去災害事例集

令和3年(2021年)1月8日～9日

大雪による長期間広範囲の交通障害

北陸自動車道で最大1600台の滞留

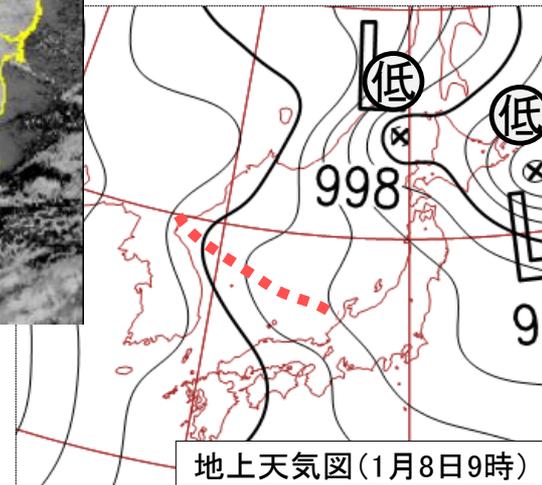
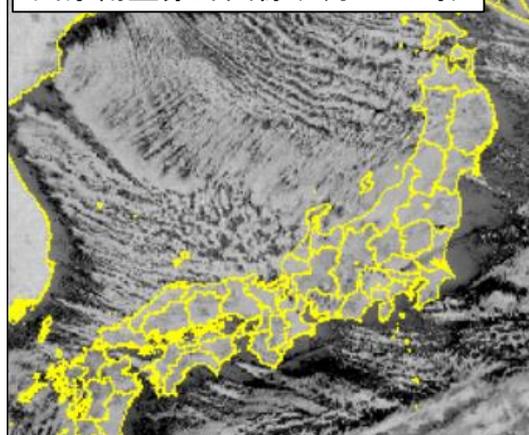
大雪による長期間の交通障害

【気象概況】

令和3年(2021年)1月7日から10日にかけて大雪となりました。この期間、北陸付近の上空約5000メートルに、氷点下38度以下の強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まりました。

「日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)」が形成され、特に8日から9日にかけて、嶺北を中心に山地だけでなく平地でも短時間に強い降雪となり、大雪となりました。

気象衛星赤外画像(1月8日9時)



地上天気図(1月8日9時)

【観測記録】

降雪の深さ(積雪差)日合計は多いところで、
福井 54センチ(1月9日)
大野 63センチ(1月8日)

【被害の概要】

人的被害は死者6名、重軽傷者合わせて91名。また、住家被害が発生しました。

交通面では、北陸自動車道で最大約1,600台の滞留が発生するなど、広範囲で長期間の交通障害がありました。

国道8号線坂井市丸岡町一本田
福井県災害対策本部資料より引用



スタックした大型車

近畿地方整備局災害情報より引用

交通障害への嚴重警戒を呼びかけ



【顕著な大雪に関する福井県気象情報】

大野市では8日昼前、福井市では、8日昼前及び9日昼過ぎに顕著な降雪を観測し情報を発表しました。

この情報は、**短時間に降雪量が多くなり**、重大な災害の発生する可能性が高まったこと、その後も短時間の大雪となることが見込まれた場合に**一層の警戒**を呼びかける情報です。

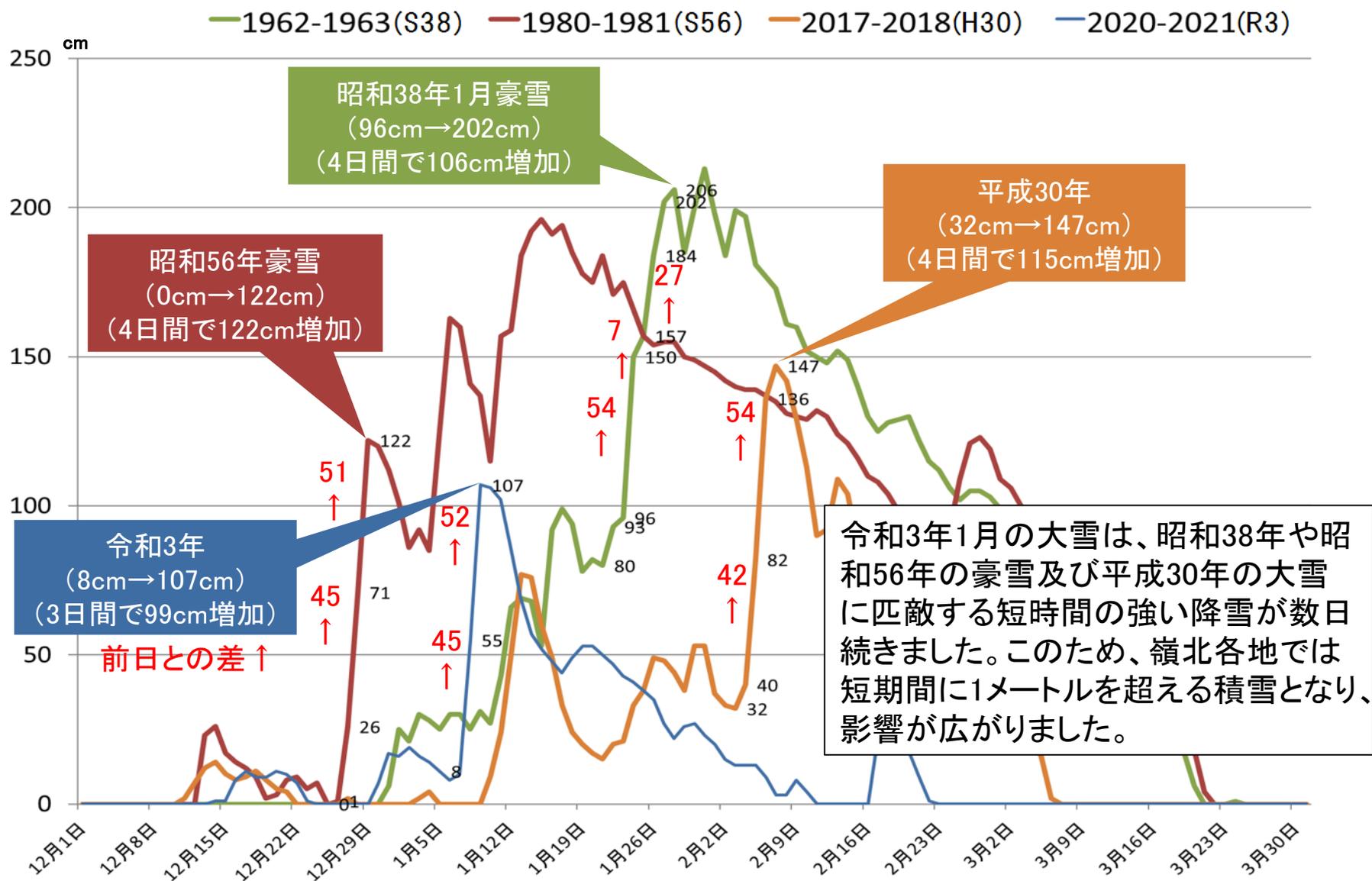
【気象情報で「**嚴重に警戒**」の呼びかけ】

1月9日昼過ぎには、「**嚴重に警戒**」を付加した気象情報を発表しました。

この情報は、警戒積雪深を超えて降雪が大雪警戒の基準を大幅に上回ると予想できた場合などに「**大雪に嚴重に警戒**」という文言を付加するなどして、不要不急の外出を控えるよう**一層の警戒**を呼びかける情報です。

過去の大雪事例との比較

昭和38年、昭和56年、平成30年、令和3年の日別最深積雪 福井



大雪(豪雪)事例

【年の極値：降雪の深さ日合計】

観測地点	観測史上第1位	観測史上第2位	観測史上第3位
福井	63cm ※昭和38年(1963年)1月24日	60cm 昭和61年(1986年)1月27日	60cm ※昭和55年(1980)12月29日
大野	69cm ※昭和55年(1980年)12月28日	63cm ※令和3年(2021年)1月8日	62cm 平成24年(2012年)1月25日
今庄	66cm ※平成23年(2011年)1月30日	66cm ※昭和55年(1980年)12月29日	58cm 平成24年(1982年)1月19日
敦賀	78cm ※昭和38年(1963年)1月12日	68cm 昭和50年(1975年)1月11日	65cm 平成8年(1996年)2月2日
小浜	81cm ※平成29年(2017年)2月10日	48cm 平成24年(2012年)12月24日	42cm 平成2年(1990年)1月27日

統計開始年：■ 福井・敦賀は昭和28年(1953年)、他は昭和55年(1980年)
※本コンテンツで事例掲載

【大雪の特徴】

昭和38年や昭和56年の豪雪では、冬型の気圧配置が長く続きました。

長期的に年最深積雪には減少傾向が見られますが、近年でも短時間の強い降雪は発生しています。

【雪害の特徴】

昭和38年や昭和56年の豪雪では、気温の低い期間が長く続き、降雪量が多くなって家屋等の倒壊、なだれによる負傷が主体でした。

近年では、短期間の強い降雪により重大な交通障害等がたびたび発生し、社会生活に大きな影響を与えています。